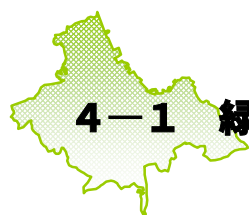


第4章 緑の解析評価及び課題の整理



4-1 緑の解析評価

(1) 解析評価の考え方

- ・ 緑は、気温の調節、生物の生息環境形成などの環境保全機能をはじめ、自然災害の軽減、緊急避難や災害復興活動の拠点等の防災機能、健康づくりに寄与する等のレクリエーション効果など、多様な機能・効果を有しています。また、緑の存在は、風景に風格を与え八戸らしい景観の形成に寄与しています。
- ・ 八戸市の緑や緑地について、環境保全、レクリエーション、防災、景観の4つの視点から、それぞれの視点に寄与する緑、または必要な緑について解析を行います。

■ 4つの視点

◆環境保全の視点：八戸市を代表する自然、もしくは身近な自然であり、都市環境負荷の軽減、生態系の保全など、都市環境を保全するために必要とされる緑

- ①八戸を代表する自然環境
- ②市街地の中の身近な自然
- ③都市環境負荷の軽減
- ④生態系の保全に資する緑

◆レクリエーションの視点：日常的なレクリエーション及び広域的なレクリエーション活動に対応する緑など、レクリエーション需要に対応して積極的に活用される緑

- ①身近なレクリエーション空間
- ②広域的なレクリエーション空間

◆防災の視点：自然災害の危険性がある箇所、災害の防止・被害の緩和に寄与する緑やオープンスペース、災害時における避難場所・避難路など、都市の安全性を守り、高める緑

- ①災害の危険性のある箇所
- ②市街地の防火性
- ③避難活動

◆景観の視点：八戸市の郷土景観、眺望点景観などの景観の特異点、その他景観の創出が求められる空間など、都市の風景を構成する要素としての緑

- ①自然景観
- ②歴史的・文化的な景観
- ③緑の都市景観

■視点ごとの解析評価項目

視点	項目	内容	対象
環境保全	①八戸を代表する自然環境	良好な植物群落、良好な水辺など八戸市の特筆すべき自然の特性について解析・評価する。	・八戸市を代表する自然 ・貴重な植生、生き物
	②市街地の中の身近な自然	市民生活の身近にある自然や緑地空間の特性について解析・評価する。	・山林、農地、河川 ・都市公園
	③都市環境負荷の軽減	ヒートアイランド現象などに対してその解消に効果があると想定される緑について解析・評価する。	
	④生態系の保全に資する緑	生き物の生息環境として保全が必要な緑について解析・評価する	・貴重な植生、生き物
レクリエーション	①身近なレクリエーション空間	住区基幹公園に代表される身近なレクリエーション空間となっている要素について解析・評価する。	・都市公園 ・レクリエーション施設 ・特徴的な自然環境 ・歴史、文化施設
	②広域的なレクリエーション空間	広域的なレクリエーション空間となっている要素について解析・評価する。	
防災	①災害の危険性のある箇所	自然災害の発生危険性のある地区について解析・評価する。	・災害危険箇所
	②市街地の防火性	延焼防止や避難路等として機能する道路、公園などについて解析・評価する。	・15m以上幅員道路 ・街路樹
	③避難活動	避難活動の拠点となる避難地について解析・評価する。	・避難地
景観	①自然景観	八戸市の自然景観を構成する要素について解析・評価する	・山林、農地、海、河川の自然環境
	②歴史的・文化的な景観	八戸市の風土を感じる歴史的・文化的な景観構成要素について解析・評価する	・社寺境内 ・史跡
	③緑の都市景観	都市景観において重要だと考えられる空間について解析・評価する。	・主要駅、中心市街地 ・港湾 ・眺望点・ランドマーク

(2) 解析評価

現況調査や市民意向調査を踏まえて、4つの視点で本市の緑を解析評価すると以下ようになります。

環境保全

①八戸市を代表する自然環境

- ・市街地を取り囲むように広がる山林や農地は、産業の場であるとともに多様な生き物の生態系の維持を支える空間となっていますが、宅地造成や採石場として開発が行われて緑とともに生き物も減少しています。山林や農地の多くは法制度により担保されていますが、部分的に法律等による保全が行われていないところがあります。
- ・市内の山林の多くは里山として利用されてきた二次林ですが、時代とともに維持管理等の手入れが行き届かない状況にあり、荒廃が進んでいることが想定されることから、維持管理を行う等保全が必要です。
- ・南部の山林から海へと流れる馬淵川、新井田川等の河川は、水生生物や野鳥の生息環境として重要な役割を果たしています。このため、河川改修等の整備に際しては、自然環境への配慮が必要であるとともに、豊かな自然環境が残されている場所については、適正な維持管理による保全が求められます。
- ・種差海岸を含む西部の海岸部は、県立自然公園と名勝に指定され、ウミネコやハマギク、ニッコウキスゲ等の動植物の重要な生息地となっていますが、植物の盗掘や外来種の介在等の問題が発生しており、一層の保全が必要となっています。



蕪島

②身近な自然環境

- ・市街地内に150㎡以上のまとまった樹林地や農地等の緑は、身近な自然環境として重要な役割を果たしており保全が求められます。また、市街地内には本市の歴史を語る古木・名木が点在していますが、開発等により伐採が行われており積極的な保全が求められます。
- ・市街地内には馬淵川等の河川が流れていますが、小河川やため池等の身近な水辺は少ない状況にあるため、生き物の生息環境としてネットワークの形成を図る上で、水辺空間の創出が必要です。



三八城公園

- ・市内には 152 カ所の都市公園が整備されており、植栽された空間は身近な自然環境として重要な役割を担っていますが、維持管理面で課題を抱えています。

③都市環境負荷の軽減

- ・一般的に緑は、二酸化炭素の吸収や大気の浄化、気温の調節、騒音や振動の緩和等の都市環境の負荷を軽減する役割を担っています。そのため、騒音の多い幹線道路沿いやヒートアイランド現象の発生が危惧される市街地内では、緑の特性を踏まえた適切な配置により、負荷の軽減を図ることが必要です。



白銀沼館環状線

④生態系の保全に資する緑

- ・緑は、野鳥や昆虫等の生き物の生息地として適正な維持管理を行ないながら保全を図ることが重要です。近年、市街地及びその周辺部においては、生き物が移動・繁殖できる樹林地や農地、水辺が減少しており、昔は普通に見られた生き物も限られた場所でしか見られなくなっています。そのため、生き物の貴重な生息の場となっている緑については、積極的な保全が必要となっています。



ウミネコ

- ・また、今ある点的な緑の保全とともに、都市公園の整備や道路、河川等の緑化により、緑相互が有機的に結ばれるネットワークの形成も不可欠となっています。

レクリエーション

①身近なレクリエーション空間

- ・市内には街区公園等の住区基幹公園が 121 ヲ所整備されており、身近なレクリエーションの場として利用されています。しかし本八戸駅周辺に少ない等、地域によって配置バランスが偏っているところも見られます。
- ・また、公園によっては整備された年度が古く、その後再整備が行われていないものもあり、施設の老朽化や高齢者や障害者が利用しにくい等の問題があります。
- ・馬淵川緑地等、水辺に親しめる空間は一部見られますが、小河川やため池など気軽に水辺に親しめる空間は少ない状況にあります。また本市は海に面していますが、市の北部の海岸は工場が集積し、海辺に親しめる空間と緑が不足しています。
- ・河川沿いや道路沿いにおいて、緑が豊かで気軽に散策できる緑のネットワークが形成されていません。
- ・市庁舎や小中学校、八戸市博物館や八戸市縄文学習館等の文化施設は、市民や来街者が利用する施設ですが、樹木や草花の緑が不足しているところもみられます。
- ・ガーデニングは緑に関するレクリエーション活動として一般的になっており、市民主体の緑化活動の支援を図るために、緑に関する相談の場である八戸公園内「緑の相談所」の機能の強化とともに、市街地内で身近に相談できる場所の設置が求められます。
- ・地域住民と行政と一緒に公園整備や緑化を進めていく事例は、全国的にみられはじめていますが、本市においては、市民との協働による取り組みはこれからといえます。



館鼻公園



八戸公園内「緑の相談所」

②広域的なレクリエーション空間

- ・県立自然公園は、本市を代表する自然観光地となっており、自然環境に配慮しながら遊歩道等の施設の充実が求められます。
- ・八戸公園、東運動公園等はスポーツ等のレクリエーションに対応する都市公園として市民に利用されています。今後とも多様化するレクリエーションニーズを踏まえながら施設の充実が必要です。
- ・長根公園は、施設の老朽化等を背景にリニューアルが検討されており、気軽にスポーツレクリエーション活動が楽しめる場として、また、中心市街地の貴重な緑のオアシス空間としての整備が求められます。
- ・環境教育の実施が重要視されていますが、市内に山林等の自然を気軽に親しめる空間は不足しています。
- ・本市には是川縄文遺跡に代表される遺跡が多くみられ、これらの歴史資源を有効活用したレクリエーション施設の整備が求められます。

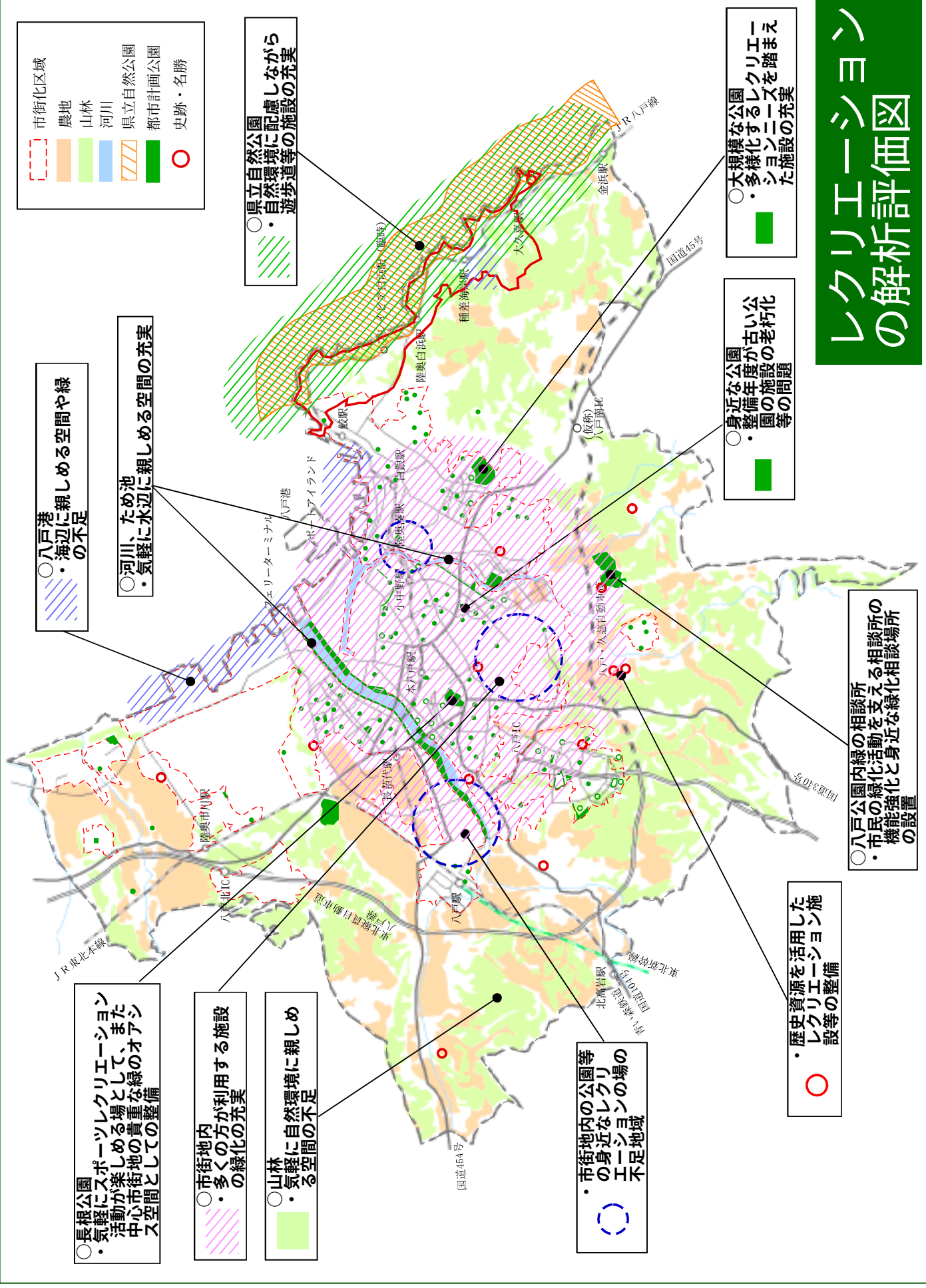


長根公園



八戸公園

レクリエーションの解析評価図



防 災

①災害の危険性のある区域

- ・山林や農地は、雨水を貯え河川に流れる水量を調節する等、防災機能を有しています。
- ・市内の山林の多くは緩傾斜ですが、部分的に山腹崩壊危険地や急傾斜地崩壊危険区域に指定されており、この地域に生育する樹林は斜面崩壊等の防災の役割に寄与しており、今後とも適正な維持管理が必要です。
- ・市南部の山林内には、保安林が3箇所指定されており（土砂流出防備林）、保安林としての機能を維持するために適正な管理が必要です。また、市川の海岸には飛砂防備林があり砂質土壌の浸食防止機能を果たしており、同様に適正な管理が必要です。



湊地域の急傾斜地崩壊危険区域

②市街地の防火性

- ・建物が密集している既成市街地内において、現在の道路を暫定的に利用するなど計画されている幅員を確保していないところが見られるため、沿道建物の不燃化や街路樹の植栽等とともに計画的な整備が必要です。
- ・八戸市の臨海部にある工業地域については、一部緩衝機能を有する緑地が整備されていますが、緑地を挟まず市街地と隣接している地域も見られます。
- ・生垣や庭木は、延焼の防止とともに建物の倒壊を防ぐ等防災上の役割も果たすため、民有地の積極的な緑化が求められます。



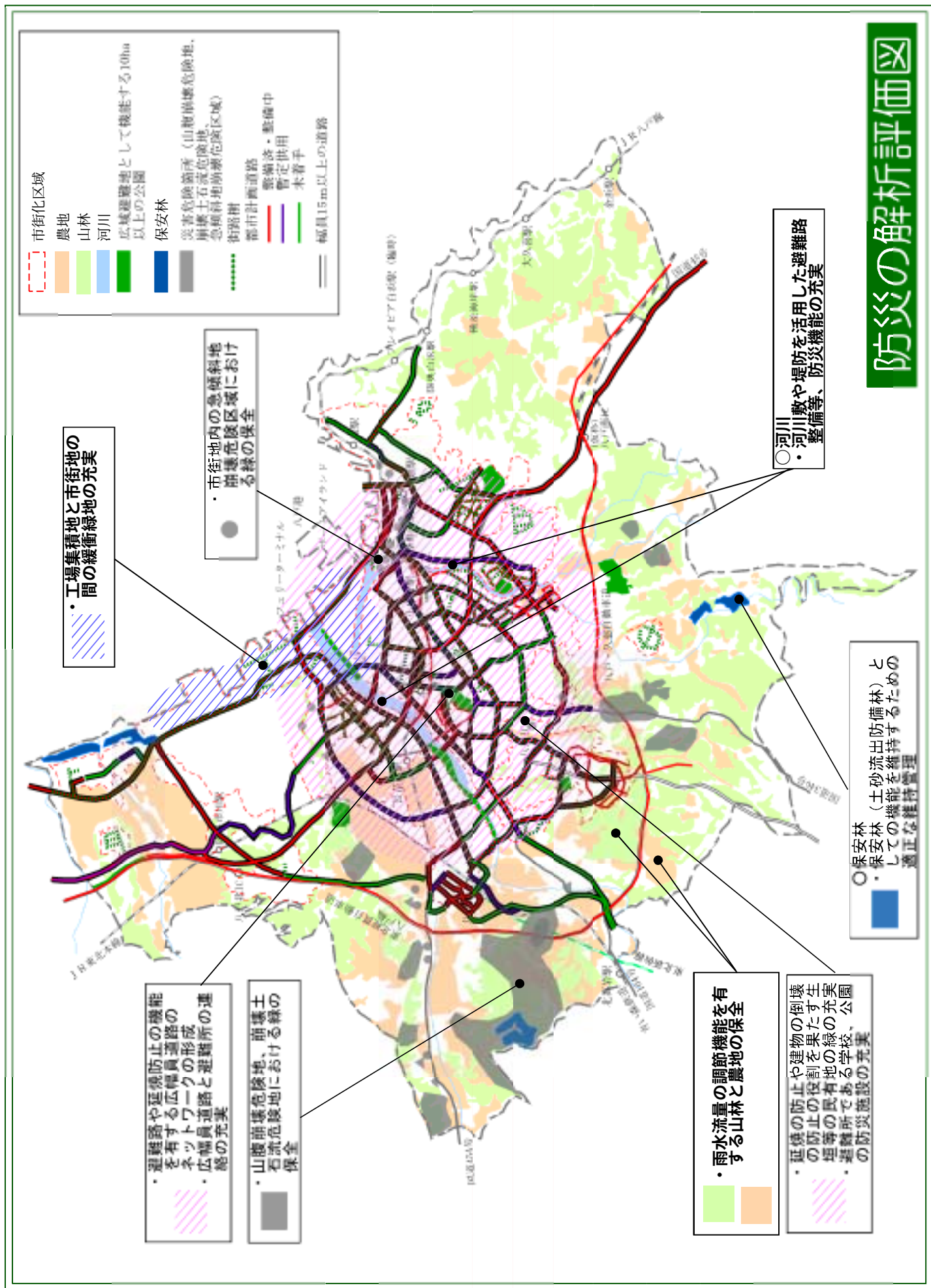
住宅地の生垣

③避難活動

- ・八戸市地域防災計画では、小中学校、体育館、公園が避難所に指定されており、災害時の安全性の向上のために周囲の緑化や貯水槽の整備等の防災施設の充実が求められます。
- ・馬淵川と新井田川の河川には広い河川敷があり、東西方向の延焼防止機能を有しているとともに、南北方向の避難路としての役割も担っていることから、市街地からのアクセス性の向上を図ることが必要です。
- ・防災に寄与する都市公園や広幅員道路等が整備されていますが、相互につながりネットワークが形成されているところは少なく、効果的に防災機能を発揮できる環境にあるとはいえない状況にあります。



国道 454 号



防災の解析評価図

景 観

①自然景観

- ・市街地の周囲に広がる山林や農地、市街地を貫流する馬淵川等の河川、市の北側と東側に広がる海岸が本市の骨格的な景観を構成しており今後も保全が必要です。
- ・市街地の周囲に広がる山林や市街地内の崖線沿いの緑地、農地は、彩りで四季の変化を演出する要素ですが、これらは人の手による維持管理を必要とするものであるため、保全とともに維持管理が必要です。
- ・種差海岸は、県立自然公園にも指定され本市を代表する自然景観の一つであり、今後とも積極的な保全が必要です。



馬淵川

②歴史的・文化的な景観

- ・八戸城跡や根城跡等是一部公園として利用されており、本市の歴史的な景観を形成しています。是川遺跡等現在発掘調査が行われている史跡もあり、歴史的な景観を形成する要素として積極的な活用が求められます。
- ・櫛引八幡宮や長者山等の歴史資源については、周囲の緑と一体的に風格のある景観が残されており、今後とも緑の保全が必要です。



根城跡

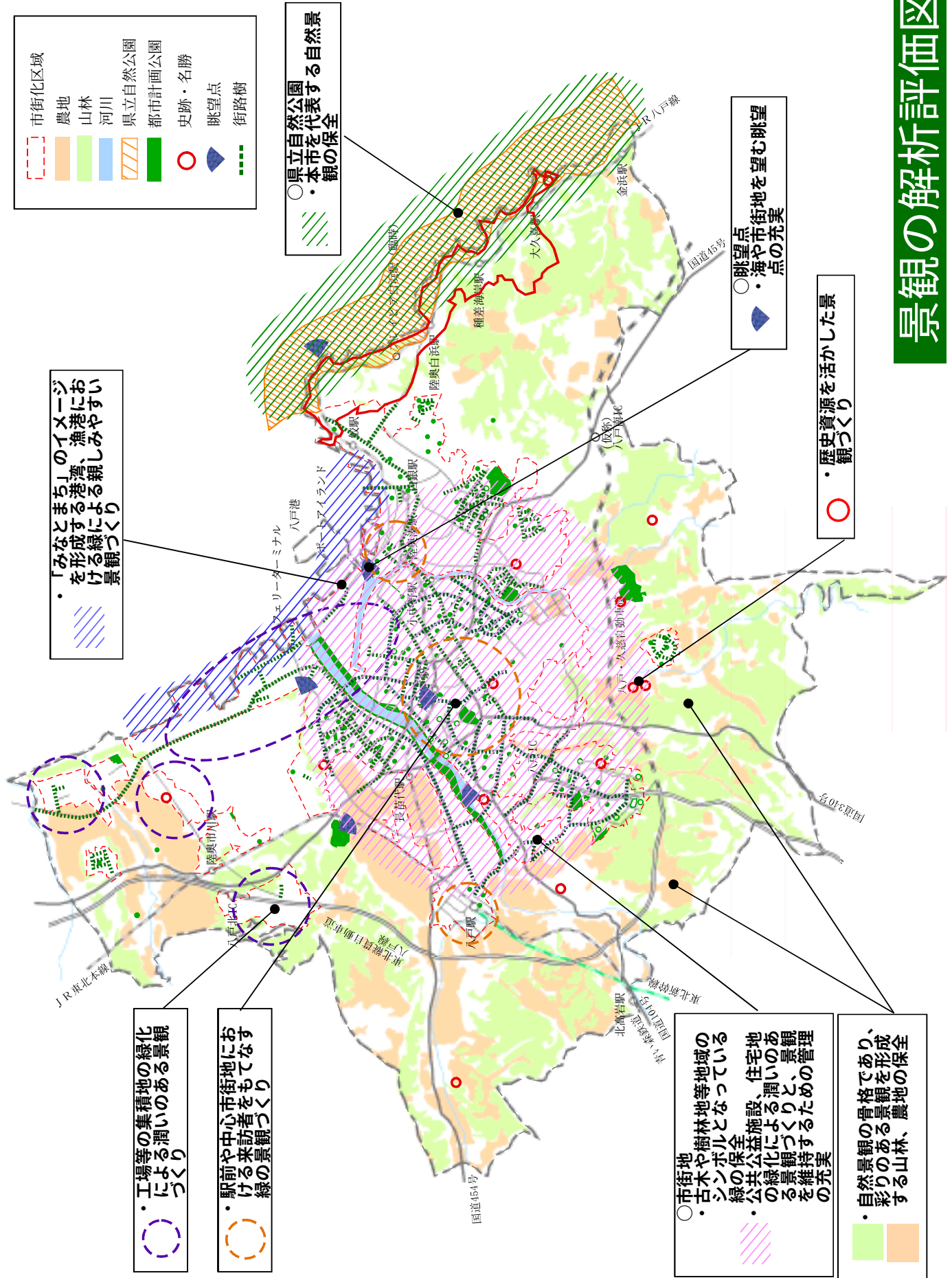
③緑の都市景観

- ・八戸駅、本八戸駅の駅前や都市機能が集積する三日町等の中心市街地は、市民だけでなく多くの観光客や来街者の目を楽しませる緑による演出に欠ける状況にあるため、積極的な緑の創出が必要です。
- ・本市は、海から拓けたまちとして、「みなとまち」のイメージが形成されていますが、海岸線は緑が少なく、親しみやすい環境とは言えない状況にあります。
- ・八戸ハイテクパークでは協定に基づき緑化が進められていますが、臨海部等の工場集積地においては、緑が少なく無機質な景観となっているところが見られます。
- ・市街地内には古木やまとまった樹林地が点在しており、地域のシンボルとして積極的な保全と活用が求められます。
- ・多くの方々が利用する、駅や中心市街地、観光地などを結ぶ道路は、景観上重要な道路であるため、緑による景観づくりが求められます。
- ・都市公園や学校等の植栽、街路樹、生垣は身近な生活空間において潤いのある景観を形成していますが、維持管理面等で課題を抱えており、さらなる緑化とともに、積極的な市民の維持管理への取り組みが求められます。
- ・三八城公園や館鼻公園等は、本市の市街地や港湾部を一望できる眺望点となっており、展望台やアクセス路等の整備の充実が求められます。



中心市街地

景観の解析評価図





八戸市の緑の解析評価を踏まえて、以下に緑に関する課題を整理します。

課題1 八戸市の特徴を活かした緑の拠点づくり

- ・八戸市は、日本有数の港湾を抱える産業都市、みなとまちであるとともに、八戸城跡や根城跡、是川縄文遺跡等、多くの歴史資源を有し、また、市街地周辺の農地、丘陵部の樹林地等、豊かな自然環境に恵まれた都市です。今後は、自然環境や景観、防災等の面に配慮しながら、これらの八戸の特徴である郷土資源を有効に活用しながら、緑の拠点づくりを図ることが必要です。
- ・長根公園や八戸公園等、広域的なレクリエーションに対応する施設が多くみられますが、施設の老朽化や市民ニーズの多様化等を背景にリニューアルが必要な施設があることから、施設の配置バランスと市民の意向を踏まえた魅力化が求められます。

課題2 緑による八戸の顔づくり

- ・市民意識調査の結果、八戸駅や本八戸駅前、中心市街地、観光施設の緑について不満をもっている市民が多くみられました。市内には山林や農地の緑が比較的多く確保されていますが、市民や観光客を始めとする来訪者が緑豊かなイメージを持つことができない要因の1つとして、駅前や中心市街地、観光地における緑の視覚的な彩りやボリューム感の欠如が挙げられます。そのため、これらの「八戸の顔」となるべき主要な場所において、緑による効果的な演出が必要となっています。
- ・さらに主要な駅や施設、中心市街地、観光地を相互に結ぶ道路については、街路樹等で緑化し緑豊かな八戸のイメージづくりを進める必要があります。

課題3 八戸市民の生活に身近な緑の創出

- ・街区公園や近隣公園等の都市公園は、身近な憩いの場やスポーツレクリエーションの場等の多様な役割を果たしていますが、地域によっては都市公園が整備されていないところも見られます。また、市民意識調査の結果、身近な公園や遊び場に対する要望が高く、また身近に欲しい緑地は地域によってその機能が様々であることから、地域のニーズを踏まえた身近な緑の整備が求められます。
- ・安全で安心なまちづくり、高齢社会に対応した人にやさしいまちづくりを背景に、緑の果たす役割も多様化しており、災害の防止や避難地、レクリエーションの場となる身近な緑の適切な配置・確保の一層の推進が求められます。

- ・潤いを感じられる、十分な量の緑を確保するためには、都市公園の整備はもちろんのこと、道路や学校等の公共公益施設の緑化、住宅地や工場地等の民有地の緑化など、緑に関する施策を一体的に行うことが求められます。

課題4 樹林地・樹木、農地等の良好な緑の保全

- ・市街地を囲むように広がる樹林地（山林）、農地については、市街地と一体的な八戸の景観を形成するとともに、都市負荷の軽減や水源の涵養、多様な生き物の生息空間等、人と自然が共生する上で重要な緑であるため、法規制により持続性を担保するあるいは土地の所有者と市民、行政の連携により維持管理を行い、質の高い緑を保全することが必要となっています。
- ・市街地内の樹林地や樹木、農地は、身近に自然に触れることができる貴重な空間であり、また、地域のランドマークやヒートアイランドの緩和、延焼の防止等多様な役割を有しています。これらの緑については、適切な維持管理による保全とともに、積極的な活用が求められます。

課題5 種差海岸等の海と河川等の水辺の緑の保全と創出

- ・種差海岸や蕪島等を含む一帯は県立自然公園に指定され、ウミネコやハマギクなどの動植物の貴重な生息場所となっており、市を代表する観光地でもあります。このため、観光地としての魅力の向上とともに良好な自然環境を維持するための取り組みの推進が求められます。
- ・八戸港とその周辺は、国際物流拠点港や漁港としての土地利用が進み、市民が気軽に海辺に親しめる空間が乏しく、また緑化も十分とはいえない状況にあります。
- ・馬淵川や新井田川等の河川は、本市の雄大な自然景観を形成するとともに、水辺の生き物の生息の場、市街地に潤いを与える等、多様な役割を果たしています。その一方で水害の危険性も秘めており、防災面に配慮しながら自然環境の保全を図る必要があります。また、市街地内を流れる小河川を利用した親水空間づくり等身近に水辺に親しめる取り組みも求められます。

課題6 緑で結ぶネットワークづくり

- ・本市には拠点的な公園や河川、街路樹の植栽された道路等、まとまりのある緑と線的な緑がみられますが、環境保全や防災、レクリエーション等の多様な緑の機能がより効果的に発揮できるよう、これらの緑のストックを活かし、さらに新たな緑で相互を結び、市域全体が緑で連絡し合う、回遊性のある緑のネットワークの形成を図ることが求められます。
- ・地域レベルでは、公共公益施設の緑化とともに住宅地や業務地等の緑化を図ることが必要であり、市民一人ひとりの活動から地域へとつながる、緑を介した地域づくりの一層の推進が必要です。

課題7 緑への意識の啓発と人材の育成

- ・八戸市の緑を保全、育成していくためには、市民の主体的な行動が不可欠です。緑に関する啓発を図ることにより、市民一人ひとりが保全や緑化活動などに対し自ら行動する意識を高め、八戸市全体として緑に関する取り組みのレベルが高まるよう対策を講じる必要があります。そのため、植物や生き物に関する環境学習や園芸教室等、緑に関する知識や情報を得る機会づくりが求められます。
- ・市民、事業者と行政の協働による緑のまちづくりを展開していくためには、地域のまちづくりの核となる人材やNPO、ボランティア等、緑を支える人や組織の育成を図ることが求められます。

課題8 緑に関する活動を支える仕組みづくり

- ・緑に関する市民の主体的な活動を継続的に展開するためには、公園づくりや街路樹の樹種選定及び管理、樹林地の維持管理について、市民が自主的に取り組める機会づくりとそれをサポートする人材の派遣等、市民活動を支える仕組みづくりが必要です。
- ・市民意向調査でも「講習会の実施」や「緑化活動の情報」等、緑に関する情報提供を求める意見が多いことから、緑の活動拠点の充実やホームページ等による緑に関する情報発信の充実が求められます。

評価内容		8つの課題
環境保全	①八戸市を代表する自然環境 ・市街地を周辺の山林や農地は、一部開発が行われて緑とともに生き物も減少しています。また、部分的に法律等による保全が行われていないところがあります。 ・市内の里山は、手入れが行き届かない状況にあり維持管理を行う等保全が必要です。 ・馬淵川等の河川は、水生生物や野鳥の生息環境として重要な役割を果たしていますが、河川改修等の整備により生息環境が狭められています。 ・種差海岸等の西部の海岸部は、動植物の重要な生息地となっていますが、植物の盗掘や外来種の介在等の問題が発生しており、一層の保全が必要です。 ②身近な自然環境 ・まとまった樹林地や農地、古木・名木等の緑は、身近な自然環境として保全が求められます。 ・小河川やため池等の身近な水辺は少ない状況にあるため、生き物の生息環境としてネットワークの形成を図る上で、水辺空間の創出が必要です。 ・市内には152カ所の都市公園が整備されており、植栽された空間は身近な自然環境として重要な役割を担っていますが、維持管理面で課題を抱えています。 ③都市環境負荷の軽減 ・森林や公園等の樹木は大気を浄化し、樹木や草花、水辺は気温の調整を行う等都市環境の負荷を軽減する役割を担っています。 ④生態系の保全に資する緑 ・生き物の貴重な生息の場となっている緑については、積極的な保全が必要となっています。 ・今ある点的な緑の保全とともに、緑化により緑相互が有機的に結ばれるネットワークの形成も不可欠となっています。	課題1 八戸市の特徴を活かした緑の拠点づくり 課題2 緑による八戸の顔づくり 課題3 八戸市民の生活に身近な緑の創出 課題4 樹林地・樹木、農地等の良好な緑の保全 課題5 種差海岸等の海と河川等の水辺の緑の保全と創出 課題6 緑で結ぶネットワークづくり 課題7 緑への意識の啓発と人材の育成 課題8 緑に関する活動を支える仕組みづくり
レクリエーション	①身近なレクリエーション空間 ・市内には街区公園等の住区基幹公園は、身近なレクリエーションの場として利用されていますが、地域によって配置バランスが偏っているところも見られます。 ・海や河川、ため池等の水辺に、気軽に親しめる空間は少ない状況にあります。 ・河川沿いや道路沿いにおいて、緑が豊かで気軽に散策できる緑のネットワークが形成されていません。 ・市庁舎や小中学校、文化施設では、樹木や草花の緑が不足しているところもみられます。 ・緑に関する相談の場となっている八戸公園内の「緑の相談所」の機能の充実とともに、身近な相談場所の設置が求められます。 ・身近な公園を計画づくりの段階から市民との協働で進める取り組みはこれからです。 ②広域的なレクリエーション空間 ・県立自然公園は、本市を代表する観光レクリエーションの場となっており、自然環境に配慮しながら遊歩道等の施設の充実が求められます。 ・今後とも多様化するレクリエーションニーズを踏まえながら施設の充実が必要です。 ・環境教育の実施が重要視されていますが、市内に山林等の自然を気軽に親しめる空間は不足しています。 ・本市には是川縄文遺跡に代表される遺跡が多くみられ、これらの歴史資源を有効活用したレクリエーション施設の整備が求められます。	
防災	①災害の危険性のある区域 ・樹林地は部分的に山腹崩壊危険地や急傾斜地崩壊危険区域に指定されており、今後とも適正な維持管理が必要です。 ・市南部の山林内には、保安林が指定されており、保安林としての機能を維持するために適正な管理が必要です。 ②市街地の防火性 ・建物が密集している既成市街地内において、沿道建物の不燃化や街路樹の植栽等とともに計画的な整備が必要です。 ・八戸市の臨海部にある工業地域については、一部緩衝機能を有する緑地が整備されていますが、緑地を挟まず市街地と隣接している地域もみられます。 ・生垣や庭木は、延焼の防止とともに建物の倒壊を防ぐ等防災上重要な役割も果たすため、民有地の積極的な緑化が求められます。 ③避難活動 ・避難所の災害時の安全性の向上のために、周囲の緑化や貯水槽の整備等の防災施設の充実が求められます。 ・馬淵川と新井田川の河川は広い河川敷を有しており、今後も延焼防止や避難路等の防災機能の充実が求められます。 ・防災に寄与する都市公園や広幅員道路等が整備されていますが、相互が連続しネットワークが形成されているところは少ない状況にあります。	
景観	①自然景観 ・本市の骨格的な景観を構成している緑の保全が必要です。 ・山林や農地は人の手による維持管理を必要とするものであるため、保全とともに維持管理が必要です。 ・種差海岸は、県立自然公園にも指定され本市を代表する自然景観の一つであり今後とも積極的な保全が必要です。 ②歴史的・文化的な景観 ・史跡は歴史的な景観を形成する要素として積極的な活用が求められます。 ・櫛引八幡宮や長者山等の社寺境内地については、周囲の緑と一体的に風格のある景観が形成されており、今後とも緑の保全が必要です。 ③緑の都市景観 ・八戸駅や本八戸駅の駅前や都市機能が集積する三日町等の中心市街地は、緑による演出に欠ける状況にあります。 ・市街地内には古木やまとまった樹林地が点在しており、地域のシンボルとして積極的な保全と活用が求められます。 ・主要な観光施設や駅と施設を結ぶ道路等において、観光客などをもてなす緑が不足しています。 ・都市公園や学校等の植栽、街路樹、生垣は、維持管理面等で課題を抱えており、市民の積極的な取り組みが求められています。 ・三八城公園や館鼻公園等は、本市の市街地や港湾部を一望できる眺望点となっており、展望台やアクセス路等の整備の充実が求められます。	